

哲風会通信

2014. 9. Vol133

県内の小中学校の夏休みも終わりましたね。今年は雨の日が多くてジメッと蒸し暑い日が続きギラギラした夏の暑さを感じる日は少なかったように思います。雑誌に掲載されていた美味しそうなかき氷を食べに行く機会も逃してしまいました。降り続いた大雨がこれから収穫を迎える秋の味覚に影響を与えないことを期待したいです。



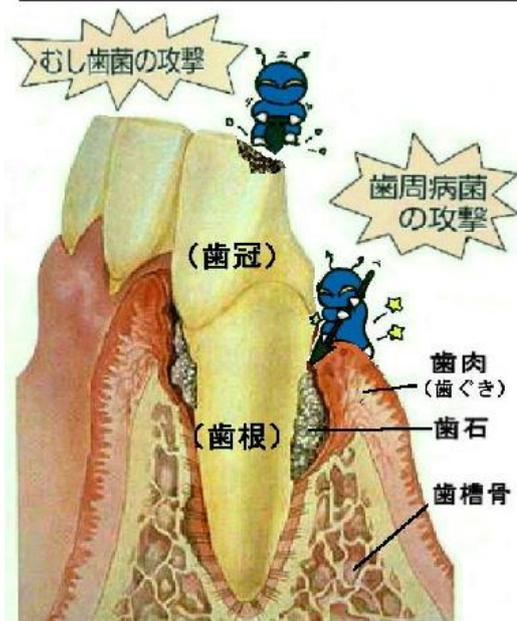
虫歯菌と歯周病菌

ご存知の方も多いと思いますが、虫歯は虫歯菌が原因です。決して、歯をかじる虫が潜んでいるわけではありません。代表的な虫歯菌は、「ミュータンス菌」です。

常在菌として歯垢（プラーク）に住むミュータンス菌は、歯に残った糖分を食べて乳酸に変えます。歯垢に溜まった乳酸は、大部分カルシウムできているエナメル質（歯の表面）を溶かします。歯の表面が溶け始めると、それはもう虫歯です。同様に、歯周病も「ジンジバリス菌」をはじめとする歯周病菌が原因です。歯周病菌は酸素を嫌う性質があるため、酸素の少ない歯と歯肉のせまい隙間などで盛んに増殖し、歯肉の炎症を引き起こします。適切な処置をせずに放置しておくと歯周病菌の巣であるバイオフィルムがますます巨大化し、炎症が進行してしまいます。

歯周病は、痛みなどの自覚症状がなく進行するので、別名サイレント・ディーズ（静かに進行する病気）と呼ばれ、症状が進行すると歯を支える骨（歯槽骨）を溶かし、やがて歯が抜けてしまう原因になります。

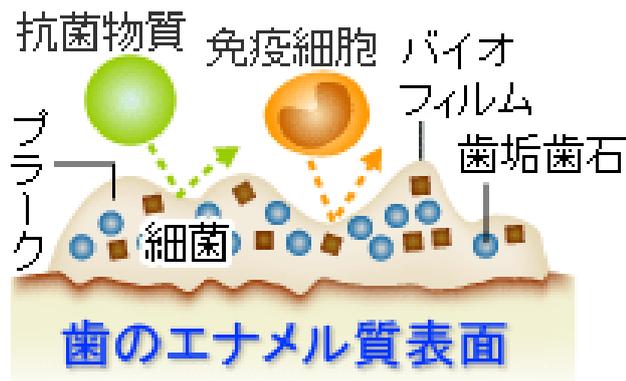
虫歯菌と歯周病菌の攻撃



歯垢（プラーク）

口の中には数百種類以上、数億個以上の細菌が棲息しており、実は細菌の数は肛門よりも多く、口の中は人間の体の中でもっとも多くの細菌が棲息しているのです！

これらの細菌が棲息している事自体は問題ではないのですが、何らかの原因によって増えすぎたり、細菌に食べかす（特に糖分を含んだ）が付着する事によって『歯垢（プラーク）＝細菌の塊』が出来上がり、歯だけでなく歯の周りに強力に付着していき、この歯垢が虫歯の



原因となったり、歯肉に炎症をおこし、歯槽骨、歯根膜を溶かしていく、まさに歯周病の原因菌なのです。物を食べれば歯垢（プラーク）が歯に付着する事は仕方ないことなのですが、歯垢（プラーク）は歯磨き等で除去することが可能なので、歯周病を予防するには日頃からの歯磨きが非常に大切となり、定期的に歯医者で健診を受ける事が歯周病予防に繋がります。

今月の通信担当

むさしデンタルオフィスの石川です。秋田の夏のイベントに欠かせない大曲の花火。今年は創造花火が誕生してから 50 年の節目を迎えたそうです。30 年近く前に初めて敷敷席で観覧した時の感動は今でも忘れることができません。花火が打ちあがる時の音がお腹にドーンと響き、鮮やかな大輪の華が真っ暗な夜空いっぱいに広がり一瞬でパッと消え、火の粉が降り注いでくる。しばらく現地で観覧していませんがまたいつかあの感動を味わいたいと思います。



医療法人 哲風会
むさしデンタルオフィス

〒010 - 0912
秋田市保戸野通町4 - 8
TEL:018-853-8214
フリーアクセス:0800-800-8461

医療法人 哲風会
ちづ歯科クリニック

〒018 - 1605
南秋田郡八郎潟町川崎字昼寝
233 - 1
TEL:018-875-2801